

第52回藤沢市地産地消推進協議会議事録

- 1 日 時 2022年（令和4年）6月28日（火）午後2時～午後4時
- 2 場 所 藤沢市役所本庁舎7階 災害対策本部室
- 3 出席者 (1) 委員 10人
ア 会場での参加
立石会長、湯澤委員、大矢委員、鈴木委員、
清水委員、石井委員、阪本委員
イ オンラインでの参加
山崎委員、林委員、太田委員
(2) 事務局 9人
ア 経済部
饗庭経済部長
イ 産業労働課
青木参事
ウ 農業水産課
及川課長、竹中課長補佐、鈴木課長補佐、
河原崎上級主査、相原主任、落合主任、千葉主任
- 4 傍聴者 なし

【第52回藤沢市地産地消推進協議会】

1 開会

それでは、定刻となりましたので、ただいまから第52回藤沢市地産地消推進協議会を開催させていただきます。

本日、司会を務めます農業水産課の竹中と申します。

よろしく願いいたします。

なお、本会議につきましては、新型コロナウイルス感染症対策を講じて開催をさせていただきます。感染症対策として机につきましては、事前に消毒をさせていただいております。入口にて、手指消毒のご案内をさせていただきました。席の配置は、できる範囲の中で間隔を取らせていただいております。

会議中についてのお願いになります。換気のためドアを開放させていただきます。マスクについては、会議中においても着用していただきますようお願いいたします。

このような状況下での会議となりますのでご協力をお願いいたします。

本日の会議につきましては、19名の協議会委員の内、現在ログイン中の委員がおりまして10名の方が出席しております。藤沢市地産地消推進協議会規則第5条に規定する会議成立要件の過半数を超え、会議が成立しておりますことをご報告させていただきます。

また、本日ご都合により欠席の方がございますのでご報告いたします。

- ・さがみ農業協同組合藤沢地区運営委員会から選出の高橋委員
- ・藤沢市畜産会から選出の和田委員
- ・江の島片瀬漁業協同組合から選出の北村委員
- ・藤沢市漁業協同組合から選出の葉山委員
- ・藤沢商工会議所から選出の大嶋委員
- ・横浜丸中青果株式会社湘南支社から選出の山田委員
- ・藤沢市食生活改善推進団体四ツ葉会から選出の青柳委員
- ・市民公募の齋藤委員
- ・藤沢市立小学校長会から選出の森委員

となっております。

なお、山崎委員・太田委員・林委員におかれましてはリモートでの参加となっております。

2 委嘱状の交付

それでは、この度、委員の変更が6名ございますので、ご紹介をさせていただきます。

始めに、日本大学生物資源科学部より選出していただいております北会長が退任され、立石亮様が委員とされます。

続きまして、藤沢市商店会連合会より選出していただいておりました金井委員が退任され、鈴木達也様が委員となります。

続きまして、市議会の建設経済常任委員会より選出していただいておりました西委員が退任され、同委員会の委員長清水竜太郎様が委員となります。

続きまして、同じく市議会の建設経済常任委員会より選出していただいておりました友田委員が退任され、同委員会の副委員長石井世悟様が委員となります。

続きまして、神奈川県湘南地域県政総合センターより選出いただいておりました佐藤委員が退任され、地域農政推進課長の阪本雅紀様が委員となります。

最後に、本日ご欠席なのですが藤沢市立小学校長会より選出いただいておりました加瀬委員が退任され、同会より森伸一様が委員となります。

この度、藤沢市地産地消推進協議会の委員としてご就任いただく皆様に、饗庭部長から委嘱状を交付させていただきたいと存じます。

それでは、順にお名前を読み上げさせていただきますので、どうぞその場でご起立をお願いいたします。

(委 嘱 式)

- ① 立石 亮 様
- ② 鈴木 達也 様
- ③ 清水 竜太郎 様
- ④ 石井 世悟 様
- ⑤ 阪本 雅紀 様 (さかもと まさのり)

なお、森伸一様におかれましては、本日ご欠席のため事務局から委嘱状を交付させていただきます。

続きまして、新たに委員になられました方に自己紹介をお願いしたいと思います。それでは、立石委員から先程委嘱をさせていただきました順にお願いいたします。

新任委員

(新任委員からの自己紹介)

事務局
(竹中)

ありがとうございました。
今年度の事務局の体制を紹介させていただきます。

事務局

(事務局の自己紹介)

3 議事録の確認

事務局
(竹中)

それでは、次第3「議事録の確認」に移ります。

第51回藤沢市地産地消推進協議会及び令和3年度第3回藤沢市地産地消推進事業実行委員会の議事録を既に送付しておりますが、修正箇所等がございますでしょうか。

修正が無いようですので、第51回藤沢市地産地消推進協議会及び令和3年度第3回藤沢市地産地消推進事業実行委員会の議事録を確定させていただきます。なお、議事録につきましては、市民相談情報課に提出をして、市民の閲覧の対象となりますので、ご承知おきください。

次に、本日の議題に入ります前に、お手元の資料の確認をさせていただきます。

事前に送付させていただいている資料の協議会資料になりますが、

- ① 次第（裏面は名簿）
- ② 資料1 「第5期藤沢市地産地消推進計画」進捗状況について
- ③ 資料2 藤沢産利用推進店認定状況
- ④ 資料3 令和3年度地産地消に関するアンケート結果について【当日配布】

続きまして、実行委員会の資料となります。

- ① 次第（裏面は名簿）
- ② 資料1 令和3年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会事業報告書
- ③ 資料2-1 令和3年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会収支決算書
- ④ 資料2-2 令和3年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会収支決算書内訳
- ⑤ 資料3 監査報告書（裏面が通帳写）
- ⑥ 資料4 令和4年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会事業計画書（案）
- ⑦ 資料5 事業計画の詳細を記載したスライド資料
- ⑧ 資料6-1 令和4年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会収支予算書（案）
- ⑨ 資料6-2 令和4年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会収支予算（案）内訳

となります。なお、机の上には閲覧用として、第5期藤沢市地産地消推進計画を置かせていただいておりますので、必要に応じてご覧いただきますようお願いいたします。

資料について不足等ございませんでしょうか。

本日の会議につきましては、すべての議題を公開としておりますが、傍聴希望者はありませんでした。

4 議 題

事務局
(竹中)

それでは、議題に入らせていただきますが、本日の会議の記録を作成する関係上、発言内容を録音させていただいておりますので、あらかじめご了承をお願いいたします。

なお、ご発言される場合は、お手元のマイクを使って名前を名乗っていただいてからご発言くださいますようお願いいたします。

また、北会長が退任されたため、藤沢市地産地消推進協議会規則の規定により、会長を選出いただくこととなりますが、副会長欠席のため、会長が選出されるまで饗庭部長に座長をお願いいたします。

饗庭部長

経済部長の饗庭でございます。しばらくの間、座長を務めさせていただきます。それでは、これから会長の選出をお願いいたします。

会長については、協議会規則第4条により、委員の互選によりこれを定めるとされております。会長を選任したいと思いますがご意見はございますでしょうか。

湯澤委員

座長に一任でいかがでしょうか。

饗庭部長

会長については、今までは「日本大学生物資源科学部」より選出されておりました委員をお願いをしておりましたので、引き続き立石委員をお願いをしたいと考えますが、いかがでしょうか。

一同

異議なし

饗庭部長

ご異議がありませんでしたので、立石委員に会長をお願いしたいと存じます。立石会長につきましては、会長の席へ移動をお願いいたします。

会長が選出されましたので、これで座長の任を解かさせていただきます。この後の進行は立石会長お願いします。

立石会長

立石でございます。ご指名ということで、本日委員になったばかりでまだよくわかってない部分も多くて、いろいろと御迷惑をおかけするかもしれないのですが、精いっぱい務めさせていただきたいと思います。活発なご議論とスムーズな形で、議事が進行することをご協力いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

早速なのですが、最初の議題ですね。(2)というところになります。第4期藤沢市地産地消推進計画の進捗状況についてですがこれを事務局のほうからご説明お願いできますでしょうか。

農業水産課河原崎と申します。説明させていただきます。資料1「第4期藤沢市地産地消推進計画進捗状況について」をご覧ください。

第4期の地産地消推進計画は、令和元年度から3年度の3年間の計画となっていました。第4期計画の施策は大きく、二つに分かれておりまして、一つは「重点的に取り組む施策」、二つ目は「長期的に取り組む施策」でございます。今回は令和3年度の取り組みについてご報告をさせていただきます。資料1には、取り組みの項目、取り組み内容、令和元年度から3年度までの取り組み実績を記載させていただいております。項目の数がたくさんありますので、太字で記載してございます、目標値が設定されているところを中心に、説明をさせていただければと思います。

重点的に取り組む施策の一つ目、藤沢産農水産物の需要拡大供給強化の取り組み項目1、「東京2020オリンピック・パラリンピック大会での藤沢産農水産物の供給及び活用」になります。こちらにつきましては、目標として、国際水準GAP等を年間1事業者ずつ増加させて令和3年度までに5事業者にするという、目標を立てておりましたが、令和3年度末の実績としては、2事業者にとどまっております。また、東京2020大会における令和3年度の取り組みといたしましては、事前キャンプのために、市内に滞在にされていた、ポルトガルのパラリンピック選手団の皆様にはさがみ農協藤沢市果樹部会様から提供いただいたブドウや梨、堪能をいただいております。この取り組みについては、パラリンピック開会式の選手団入場の際、NHKの中継でエピソードとして紹介されておりました、藤沢市の農水産物が全国に発信される貴重な機会となっております。項目1については以上になります。

続きまして項目2「ふじさわ産利用推進店の充実」についてです。目標値としては、年間10%ずつ、利用推進店の店舗数を増やすというものを掲げておりました。実績といたしましては、令和3年度の実績としては、ひとキュンの店舗が83店舗ふたキュンの店舗が35店舗、合計118店舗ということで、こちらについては目標には届いておりません。詳細につきましては、この後の議題3、「(3) 藤沢産利用推進店の認定状況について」で詳しくご説明をさせていただければと思うのですが、新型コロナウイルスの影響等によって売り上げが減少してしまっており、藤沢産の食材を使用しなくなってしまっており、利用推進店ではなくなってしまった店舗が令和3年度においてはあった状況になっております。

続きまして資料を1枚おめくりいただいて、取り組み項目5番目になります。「藤沢産農水産物等の表示」になります。こちらについては、年間10%ずつ増加させ、令和3年度までに藤沢産ロゴマークシールの配布数を555,000枚にすることが目標となっております。令和3年度の実績といたしましては、919,600枚となっております、目標を大幅に上回るシールを配布することができている状況になっております。

続きまして重点的に取り組む施策の二つ目「藤沢産農水産物等の学校・保

育園給食供給強化」の取り組みの状況をご説明いたします。

項目6ですね。「学校・保育園周辺で生産されている農産物の活用」の取り組み内容になります。こちらの目標値といたしましては、学校・保育園周辺で生産されている、農水産物を給食として提供するモデル校・モデル園の数になっていまして、令和3年度までに小学校は毎年度1校ずつ増やしていく、保育園については、新たに1園をモデル園として選定するというようなことを目標としておりました。令和3年度の実績といたしましては、まず保育園のほうですが、俣野保育園をモデル園として設定いたしました。藤沢産新米はるみの他、大豆の提供などを行っています。小学校については、令和2年度までにモデル校の目標である4校の設定が完了しておりましたので、その時点で目標は達成していたという状況になっています。

小学校のモデル校は、御所見小・亀井野小・俣野小・中里小の4校がございますが、こちらについては令和3年度としては、安定・充実したシステムが構築できるように、学期ごとに生産者の方や関係者の方と意見交換などを行っております。

続きまして、項目7番目「藤沢産農水産物等の利用促進」になります。目標値は、藤沢産農水産物を活用した給食「ふじさわランチ」の回数を小学校では、年1回ずつ増やしていくこと。保育園では年2回へ増やしていくこと、そして最終的には令和3年度までに小学校は9回へ、保育園は6回実施するというものが目標になっておりました。最終的に令和3年度の実績といたしましては、目標にはわずかに届かなかったのですが、小学校で8回、保育園で2回というような、実施状況になっています。目標は残念ながら達成することはできなかったのですが、小学校給食では、令和3年度は43品目の農水産物を給食に使用していただいております。新米の日などを設定するなど、利用促進に取り組んでおります。保育園については、これまで、「ふじさわランチ」を実施できていなかったのですが、令和3年度に初めて実施することができたという状況になっています。こういった藤沢産農水産物の学校や保育園、給食での供給を強化につきましては、次期計画においても、重点的に取り組む施策として位置づけておりますので、引き続き利用品目の拡大や供給量の増加に努めてまいりたいと思っています。

そして重点的に取り組む施策の最後になりますが、「地産地消の普及啓発、健康施策との連携強化」に関する取り組みの実績になります。項目10番「農・畜・水を一体とした藤沢産農水産物等のイベントの開催」につきましては、イベントの来場者数を年間1,000人ずつ増加という、目標値を掲げておりました。令和3年度に8,000人にするという目標値を掲げておりました。こちらについては、令和元・2年度ともに新型コロナウイルスの影響でイベントを実施できなかったため実績はございません。令和3年度については、今年の3月13日に、藤沢の漁港において「みなと春マルシェ」というイベントを開催させていただいて2,794人の方に来場をいただいたというような実績がございます。

またですね、目標値を掲げているものではないのですが、簡単にご紹介ということで、項目11時から14までに、イベントや講座について記載させていただいております。令和2年度は新型コロナウイルスの影響で中止としたイベントなどが多くあったのですが、令和3年度においては少しずつこういったところも開催できるようになっておりまして、例といたしましては公民館において、食生活改善推進講座が開催されたりですとか、国の登録有形文化財の「旧桔梗屋」というのがございますけども、そちらで藤沢産野菜の販売を行うなど、少しずつイベントが開催できるようになってきていることをご報告いたします。それから最後に、項目15以降は長期的に取り組む施策になりますので、目標指標は設定しておりませんので、詳細な説明は割愛させていただくのですが、項目32のところに「公民館や地域団体等が実施する施策との連携」という取組項目がございますので、こちらに数多くの地域で実施していただいている取組みというのが、報告として上がってきています。例といたしましては稲作や収穫体験の実施であるとか、農家の方が講師となる家庭菜園の講座、乳幼児家庭向けの調理実習などいろいろと工夫をしていただいて、地域の特性を生かした取組み実績が報告として上がってきていますので、お時間があるときにご参照いただければと思います。説明は以上になります。

立石会長

はい。ご説明ありがとうございました。今事務局から説明ありましたが、これに関しましてご質問やご意見などございましたらお願いいたします。ZOOMでご参加の委員の方も質問等ありましたらよろしく申し上げます。

湯澤委員

今の説明の中の7番ですけども、藤沢産農水産物等の利用促進ということで、令和3年度のところで目標回数小学校が8で、実績が8で目標が達成できているってということですよ。保育園の4回に対して、実績が2で達成できなかった。「達成できませんでした」というだけで流れちゃったかと思うんですけども、達成できなかった理由等があれば教えていただきたいんですけども、何かございますでしょうか。

事務局
(落合)

農業水産課の落合と申します。達成できなかった件につきましては、なかなかその生産者が保育園に供給するというルートが確保できないというようなことがございまして、実現できなかったというケースがございます。ただ令和4年度につきましては、お米・大豆その他にもトマトとか野菜も提供して藤沢ランチの回数を増やしていきたいと考えております。以上です。

湯澤委員

そのお答えの件ですけども、「ルートが見つからなかった」のか、「農業者のほうでその農産物が天候等の関係で供給できなかった」のか、という細かいところまでわかりますか。

事務局
(落合)

農業水産課の落合です。小学校につきましては湘南中央商事を通じて供給をしております、保育園につきましては、そこを通じた形での供給を行っていない関係がございましたので、新米・大豆につきましては、生産者から直接提供したというような形になっておりました、個別に生産者に調整をするというような今格好になっておりますので、どうかですね、そういった供給網を構築していかないといけないところが課題としてありまして、今後調整をしていきながら、回数を増やしていきたいと考えております。

湯澤委員

わかりました。ありがとうございます。

立石会長

ほか、ございますでしょうか。

事務局
(河原崎)

事務局からよろしいでしょうか。

本日欠席の青柳委員から資料をご覧いただき、ご意見をいただいておりますのでご紹介をさせていただきます。内容といたしましては、今、ご指摘があったところと同じ箇所になるのですが、学校保育園での藤沢ランチの件がタウンニュースに載っているのを見ました。モデル校以外では藤沢ランチといったものは実施されていないのでしょうかというようなご質問をいただいております。

こちらについてこの場でご回答させていただければと思うのですが、まず藤沢ランチの定義といたしましては、給食で使用する食材のうち、藤沢産の農水産物を2品目以上使った献立が提供されることとあわせて、食べるだけではなくて、藤沢産の農水産物をPRするような、授業のようなものを実施したものを、藤沢ランチとさせていただきます。先ほど取り組み項目6番のところモデル校のお話をさせていただいたのですが、藤沢ランチ自体はモデル校以外の小学校でも、実施されておりました白浜養護学校を含む、全校で実施をさせていただきます。ただ保育園での藤沢ランチの実施というのは、俣野保育園のみとなっておりますので、保育園と小学校で取り組み状況が異なるのですけれども、そういった状況になっているので、ご説明させていただきました。以上です。

清水委員

清水です。大きな質問で申し訳ないのですが、先ほど藤沢の地産地消が「元気がある」「勢いがある」と申しました。形になっている、なってきたというふうに感じまして、何かと申しますと、まず定期的なマルシェ開催されているということ。もう一つが「農」で言えばトマト、あとブドウですか。あと「畜産」で言えば豚。「水産」ではシラス。そういう見える形でこれが売りになってきたというの確立されているということを私は印象を持っているので、「元気がいいな」「勢いがある

な」と感じたのですが。これを見ると、やっぱり漠然としていて、どれを売ろうとしているのかっていうのが、いま一つぴんとこないのですけれども、その点はいかがお考えなのでしょうか。

事務局
(及川課
長)

事務局の農業水産課の及川です。今ご指摘いただいたようにどれを売ることかというのは漠然としているというご指摘もあろうかと思ひまして、それもあってですね、第5期計画でブランドの確立というのを重点施策として位置づけさせていただいたというところなんです。今清水委員ご指摘いただいたトマトですとかブドウ・豚肉・シラスといったところはもうある程度知れ渡ってきたのかなというところもございますので、この第5期計画でやろうとしているのは新たな藤沢ブランドの創出というところで、今まであまり生産されていなかったものを5年間の期間をかけてですね。藤沢ブランドとして確立させていくということを皆様と一緒にやっていきたいというふうに考えております。以上でございます。

立石会長

はい。ありがとうございます。ちょうど次のステップに入ってきたという感じたところで、ブランド化を進めていくというところでこの辺で本件につきましては、よろしいでしょうか。

石井委員

最後に一つすいません、1点だけお伺いしたいなと思います。

地産地消ということで、本当に、生産者の方達が日々努力されているのだろうと思うのですが、生産する量・消費量というのは、地元のものだけではなくて、全国的に消費がそもそも落ちていないのかどうかという統計があればお伺いしたいなと思うのですが。

事務局
(及川課
長)

市内の消費量がどれだけ「上がっているのか」「落ちているのか」というようなそういった細かい数字まで持っていないのですが、例えばお米はかなり消費量が落ちているというような状況がございます。藤沢につきましては人口も増えておりますし、逆に生産量が少し落ちているというところもありまして、藤沢産だけで年間の数量確保できるとしたら今トマトぐらいかなっていうところなんです。ですので他の品目については、まだまだ、藤沢市民全員の口に入るようなものがございませんので、やはり生産も増やしていかなきゃいけないというような状況もございます。ただそこまで43万人皆さんの口に入るような、そこまでの農地が残っているわけではございませんので、なるべく市民の皆さんに食べていただけるように、市内流通を促進していくというところが地産地消の1番、重要なところかなと思っております。以上です。

立石会長

よろしいでしょうか。いろいろありがとうございます。これでよろしければ次の議題へいきたいと思ひます。議題の3番目になりますね。「藤

沢産利用推進店認定状況について」ということになります。資料2のことです。これについてまた事務局のほうから説明をお願いいたします。

事務局
(千葉)

農業水産課の千葉と申します。私から資料2の「藤沢産利用推進店の認定状況について」説明させていただきます。初めに本協議会に新たに就任された方もいらっしゃいますので、藤沢産利用推進店の制度について簡単に説明させていただきます。藤沢産の農水産物及び加工品を積極的に利用する小売店・飲食店・宿泊施設・移動販売店等を、藤沢産利用推進店として認定して、地産地消の取り組みを市民に周知することで、藤沢産への理解と地産地消の意識向上につなげ、地産地消の推進を図っていくことを目的としております。こちらの目的につきましては、第5期地産地消推進計画の長期的に取り組む施策として、「藤沢産農水産物等の需要拡大・供給強化」において「利用推進店の充実」ということを目標としております。

それでは議題(3)藤沢産利用推進店認定状況についてご説明させていただきます。お手元の資料2をご確認ください。1ページめくっていただいて、「1 藤沢産利用推進店の認定について」ございますが、藤沢産利用推進店の認定申請がありましたので、藤沢産利用推進店認定要綱に基づき、次の日程で認定審査を行っております。2の審査会の日程でございますか。第1回審査会から第7回の審査会については、前回の協議会でご報告させていただいておりますので、本日の協議会では、3月30日に開催した第8回審査会についてご報告させていただければと思います。表記では第7回と書いてしまったのですが、第8回と読みかえていただければと思います。では、4ページ、第8回の審査会では、1キュン1店舗の認定審査を行い、基準を満たしておりますので認定しております。店舗の詳細については表をご覧ください。続きまして5ページにお移りいただきまして、「3 登録店舗数及び廃止について」をごらんください。(1)登録店舗数の表では、2022年3月30日の審査会後の登録店舗数を反映させたものでございます。表の1番右下の欄、グレーで囲われている場所ですね。こちらをご覧ください。こちらが3月30日現在、登録店舗数は1キュン64店舗2キュン32店舗の合計96店舗となっております。次に6ページにお移りください。こちらは、年度末登録数と新規登録数をグラフにしたものです。年度登録数と新規登録数の関係につきましては、令和2年度と令和3年度を比較したところ、5店舗減の96店舗となりました。令和3年度の96店舗の内訳としまして、下のイの表をごらんください。令和3年度は2キュンが32店舗で前年比プラス2店舗の増となっております。年々2キュンの店舗数は増加している形となっております。続きまして、7ページをごらんください。今年度の廃止店舗について記載しております。廃止店舗数は合計で22店舗となっております。詳細につきましては、閉店が2店舗、店舗の休業が4店舗、認定取り消しが16店舗ありました。認定取り消しの中で多い理由としましては、海水浴場の閉鎖のため

と、藤沢産食材を使用しなくなったためです。更新審査を毎年行っているのですが、未提出の店舗が2店舗ございまして、また、新たに申請が来ましたら、更新の審査を行っていきたくております。次のページ8ページ以降につきましては、登録店舗数の一覧となっており、登録しております96店舗の情報について記載しておりますので、ご覧いただければと思います。利用推進店認定状況につきましては事務局からは以上となります。

立石会長

はい。ご説明ありがとうございます。ただいま説明ございましたけどもご質問ご意見等ございましたらよろしく申し上げます。

清水委員

私の理解が間違っていたとか、地産地消の地消のところは藤沢市だけに限られているのかなと思うのですが、例えば隣の市町村とか、もう少し広げた湘南なり、神奈川県なりそういう概念というのをお持ちじゃないのでしょうか。私はもうちょっと広いのかと元々思っていたのですが、要するに内だけで消費するのではなくて、やっぱりある程度、広げて地消していかなきゃならないのではないかなと考えるのですが、いかがお考えでしょうか。

事務局（及川課長）

利用推進店につきましては藤沢市内に限定はしていないものでして、例えば横浜ですとかお隣の茅ヶ崎ですとか、登録されている店舗もございまして。なるべく藤沢市民が活用できるような場所ということで考えておりますので、市内だけでなく近隣市まで含めた形で認定をさせていただいているところでございます。一覧の中でも例えば、68番に茅ヶ崎市の「なんどき牧場」さんだとかそういったのも載っておりますので、藤沢市民が使えるような場所であれば、認定をしていくという流れにはなっております。以上です。

立石会長

よろしいでしょうか。現状は藤沢市が多いということですね。他にございますでしょうか。こちらにつきましてはこれで終了とさせていただきますと思います。続けてですね、議題の4です。「地産地消に関するアンケート結果について」これも事務局からご説明をお願いいたします。

事務局（相原）

事務局の相原と申します。こちらの議題につきまして私から説明させていただきます。まず資料といたしましては、昨年度実施いたしました令和3年度の調査結果につきましては、本日当日配付させていただきました資料3となります。令和2年度の調査結果ですね、もう一つ前の結果につきましては、お手元にあります第5期計画の中に、59ページから記載がございまして、こちらは令和2年度の報告となっております。本日の説明では当日配付をいたしました。資料3の調査結果を中心に報告いたしますの

で、資料3をご覧いただければと思います。まずこちらの資料3ですね調査の概要につきましては1枚めくっていただいて、ページ1に記載がございます。こちらのアンケートは、令和2年度に調査を開始いたしまして、今回で2カ年目となっております。アンケートの目的といたしましては、地産地消及び藤沢産の農水産物に対する意識や関心、消費者の購買動向などについて調査いたしまして、今後の施策や事業の検討の参考とするものとしております。こちらのアンケートですが郵送での調査を行いまして、調査設計といたしましては(3)の記載のとおりとなっております。回収状況といたしましては、対象者3,000人中、回答が1,643件の回収となっております。回収率は54.8%となっております。こちらのアンケートですが、郵送で同封している紙だけではなくてですね。ウェブでの回答も受け付けておりまして、ウェブでの回答は約40%の回答となっております。対象者の内訳ですとか、調査結果を見る上での注意事項につきましては、

(5)、(6)に記載のとおりとなっております。続きまして調査結果につきましてご説明させていただきます。会議の時間もありますので要点のみの説明とさせていただきます。まず、構成としまして2ページにつきましてはご回答いただいた方の性別・年代・居住地域・世帯構成等が2ページに記載がございます。1枚めくっていただいて、3ページ以降は各地産地消に関する設問の集計結果が載っております。少し飛びまして21ページからはクロス集計という形で、各設問をですね、21ページからは年代別の傾向が載っているもの。飛びまして、27ページからは地域別の傾向を示すような資料となっております。前回の調査からの変更点になりますが、9ページの16番の設問ですね。「藤沢産の農水産物といえば何を連想しますか」の設問、こちらは令和2年度の際には、自由記述としておりましたが今回の調査につきましては、前回の回答が多かったものにつきましては選択式といたしまして、そのほか、連想するものがあれば自由記述欄にご記入いただく形として今回は集計をしております。次に、こちらのアンケートの全体的な傾向としましては、令和2年度の調査と比較して大きく数値が変動している設問っていうのは少なくなっているのですが、注目したい数字が4ページの設問9ですね、こちらですと、「地産地消に関心があるかどうか」という設問になるのですが、こちら回答いただいた方の約75%の方が「関心がある」と答えている数値ですとか、あわせて、12ページの21をご覧ください。「地産地消を応援しようと思いませんか」という設問に対して「既に応援している」は13.2%を「応援したいと思う」と回答している方が76.3%、合わせると約9割の方が答えていただいている、かなり高い数値が出ていることがわかります。しかしながら一方で8ページの15ですね。「購入の際に藤沢産のものであるか気にしていますか」という設問に対しては、「藤沢産のものであることを気にしている」という方が「かなり気にしている」と「ある程度気にしている」を足しても約45%程度という形で先ほど見ていただいた数とかなり数字に大きく開

きがあることがわかります。これに伴って別の設問見ていただきたいのですが15ページの24ですね。「どのような情報があれば地産地消に取り組みやすくなると思いますか」というところで、約7割の方が「どこで購入できるのか」という購入できる場所の情報だったりですとか、あとはお隣の25の設問を見ると、こういった取り組みが効果的かというところで、「スーパーなどの量販店での購入」と答えている方が77.3%とかなり高い数値が出ていまして、こういったところから見ますと、普段の生活の中で利便性が高い面を考慮したような施策を今後、市としましても取り組んでいく必要があるのではないかと、こういった数値から考えております。最後にですね、1番最後の18ページの26の設問になるのですが、こちら自由記述欄となっております、大変多くの方から、いろいろなご意見をいただいております。お手元に配付しております資料にはですね、紙面の掲載量の関係もございまして代表的な回答を抜粋して掲載させていただいております。こちらの資料とは別にですね。資料編といたしましてこちらの26の設問を全てお載せしている冊子も作成してございますので、どのようなご意見があったのか全部見たいという方がいらっしゃいましたら事務局までお声がけいただければ、全て載っている冊子もご用意ございますので、お声がけいただければと思います。事務局のほうから以上になります。

立石会長

詳細なとりまとめ、ありがとうございます。大変だったのではないかなと思います。これについて何かご質問ご意見ございましたらよろしく願いいたします。

湯澤委員

最後のほうの説明の中の20ページで、ざっと見て目についたのが一つだけ気になっているところがありました。20ページの1番最後のところで、野菜は主に八百屋で購入しているという所なんですけども、「藤沢産は無く」と書いてありますよね。多分なんですけども、当然藤沢産の農産物は時期によってはすごく少ない、時期っていうのはあります。しかしながら、皆無になるっていうことも逆はないと思っています。藤沢産の農産物が他市・他県に流れていくということは当然あり得ることなんですけども、藤沢の市場を通して藤沢市にある八百屋さんにも十分流れていると思ってるんですけども、多分その中で、藤沢産ですよというアピールをされていなかったのか。通常でしたらね、トマトにしてもキャベツしてもキュウリにしても、個人以外であれば、藤沢産というネーミングの入った箱を使っていることが多いので、ちょっと気にしていただければ、藤沢産がいろんな形で出てるということが、わかっただけかと思っています。しかしながらこういう意見があるということがアピールの仕方というか、表示の仕方というか、それがイマイチなのかなっていうように、これが見てとれましたので生産者はもちろんのこと、農協通しての農産物、また個人出荷の農産物いろいろありますけども、販売のほうにお願いすれば、もうち

よつこの藤沢産っていうアピールの方法があるのかなと思いました。以上です。

立石会長

ご意見ありがとうございます。事務どうでしょうか。

事務局（及川課長）

藤沢の物は無いけれども茅ヶ崎や三浦、綾瀬市のものをよく見ると書かれているのですが、確かにこういう扱いをしている店舗もありまして、なぜ藤沢の物が入ってないのかは、そのお店に聞かないとわからないですが、こういったお店もあることは事実です。ただ一方で今ご指摘いただきましたけれども、この冊子の11ページの20番のところに「藤沢産のロゴマークを目にしたことがありますか」という設問がありまして、地産地消のマークで真ん中に豚の絵が書いてあるやつですけども、これが38%の方が「見たことがある」というふうにご回答いただいております。前回令和2年の時もですね同じぐらい、36.4%の回答をいただいているのですが、これだけの方が藤沢産のマークを見たことがあると回答していただいているのは我々にとってすごく励みになっていますし、かなり浸透してきているのかなという実感もございますので、このマークを目にしたことがあるっていうところですね、もっと伸ばしていけるような取り組みをしていきたいというふうに考えております。

立石会長

ありがとうございます。「もう少し宣伝の取り組みを」ということですね。他にはございませんでしょうか。特にないようでしたら、最後の議題に移りたいと思います。その他というのがありますけども、委員の皆様、あるいは事務局のほうから何かその他に関してございますでしょうか。大丈夫でしょうか。特にないようですので、これをもちまして藤沢市地産地消推進協議会の本日予定していた議題は全て終了いたしました。それでは司会進行を事務局にお返ししたいと思います。ありがとうございます。

事務局（竹中）

立石会長ありがとうございます。これをもちまして第52回藤沢市地産地消推進協議会を閉会とさせていただきます。引き続き令和4年度第1回藤沢市地産地消推進事業実行委員会に移らせていただきたいと思いますのですが、皆様このまま続けさせていただいてもよろしいでしょうか。1回、休憩をとりたいとか、そういった方がいらっしゃらなければ続けさせていただくということで進めさせていただきます。ありがとうございます。

令和4年度第1回藤沢市地産地消推進事業実行委員会

1 開会

事務局
(竹中)

恐れ入ります。お手元の地産地消推進事業実行委員会次第の裏面をご覧ください。現在、実行委員会につきましては、三つの部会に分かれていただき実施する取り組み等の話をさせていただいているところなのですが、このたび新たに委員になられた方につきましては前任者が在籍していた部会に入ってくださいこととなります。また清水委員、石井委員におかれましてはオブザーバーとしてご参加いただくということになりますので、よろしくお願いたします。

2 委員長の選出

事務局 (竹
中補佐)

続きまして次第の2番目、委員長の選出をお願いしたいと思うのですが、委員長につきましては規約によりまして、委員の互選によりこれを定めることとされております。

委員長選任したいと思います。ご意見特に皆様よろしいでしょうか。委員長につきましては、今までも日本大学生物資源科学部より選出いただいております委員をお願いしておりましたので、こちらのほうも先ほどの地産地消推進協議会とあわせまして、引き続き立石委員をお願いをしたいと思います。いかがでしょうか。

一同

異議なし

事務局
(竹中)

ありがとうございます。ご異議がありませんでしたので、立石委員に委員長をお願いしたいと思います。それでは令和4年度、第1回藤沢市地産地消推進事業実行委員会を始めさせていただきます。

3 議 題

立石委員長

再びこちらの席に座らせていただきます。どうぞ引き続きよろしくお願いたします。それでは早速ですけれども、もう一つのほうの実行委員会の資料をごらんいただきまして、3番目の議題の1ですね。令和3年度の事業報告及び収支決算報告について、資料の1、2の1から2、資料の3、これらにつきましては、事務局からご説明よろしくお願いたします。

事務局
(河原崎)

事務局の河原崎から説明をさせていただきます。まず資料1「令和3年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会事業報告書」をご覧ください。こちらで地産地消実行委員会の予算を伴う事業を中心にご報告をさせていただ

ければと思います。「2 地産地消実行委員会の予算を伴う事業」についての「(1) イベントへの参画実施」の「ア 地産地消イベント」につきましましては、先ほどの協議会のほうでも、少し触れさせていただきましたけども、「みなと春マルシェ」を3月13日に開催させていただいております。続きまして、「イ ふじさわ元気バザール等 地産地消イベント事業」になりますけれども、2ページにお移りいただいて、昨年10月9日に実施された元気バザールの中で、エコバッグを持参して野菜市で購入いただいた方に、ふじさわ産の花、ビオラを配布するとともに、おいしい藤沢産ホームページの周知を行っております。また「(イ) 地産地消弁当販売事業」として11月15日から11月30日の間、市役所サンセット広場において、ふじさわ産利用推進店テイクアウト部会連絡協議会と連携をいたしまして、藤沢産新米「はるみ」及び、農水産物を使用した弁当販売を行っております。続いて「ウ 花育体験イベント」というものを、12月4日に市役所サンライズ広場において開催させていただいております。「花育」というのは、いろんな知識や体験をどんどん吸収する、成長段階の子どもたちに花や緑に触れ合っていただく機会を設けて親しみ楽しんでもらうための取り組みになっておりまして、生産者の方との交流を通じて、藤沢産の農産物の知識や理解を深める機会となったと思っております。参加した子どもからは「いろんな色のお花があって、色が合うかどうかわからなかったんですけどもやってみたら、とてもいい色になって楽しかったです」というようなうれしい感想をいただいております。続きまして3ページに移りまして、「(2) 藤沢産農水産物の普及啓発」のところですね。PR用ミニのぼり旗等の作成として、会場には受付のところに置かせていただいているのですが、写真のようなミニのぼり旗とポップを作成させていただいて、わいわい市や市内の量販店に設置をいただいて、PRをさせていただきます。続きまして藤沢産ロゴマークシールの作成につきましましては、ホームページおいしい藤沢産のQRコードを掲載した、新しいシールを作成させていただいて、わいわい市や生産者の方に90万枚以上ご利用をいただいております。先ほど少し課長のほうからも話がありましたけどもアンケート結果からもこのロゴマークについては38.1%の方が目にしたことがあるということで、少しずつ認知度も上がってきているのかなと思っております。次のふじさわ産利用推進店PR用食べ歩きマップにつきましましては、会場のほうには机上に実際作成したものを配付させていただいているのですが、藤沢駅周辺及び片瀬江ノ島駅鵜沼海岸駅周辺という、二つの種類のマップを作成させていただいて、市内の宿泊施設等に配架をしてもらうようお願いをしております。1枚ページをめくりました4ページ目の1番上、ふりふりバター体験事業につきましましては、昨年度は天神小学校の5年生を対象に、やまゆりポーク生産協議会の方とも連携をして、畜産の授業をあわせて実施し、畜産の理解促進を図ったものでございます。続きまして市役所本庁舎等における花きのPRについま

しては、8月とですね12月に展示をさせていただいて、PRを行ったものです。続きまして、PR用動画の作成につきましては、藤沢産サンセットマルシェという毎週水曜日と金曜日に市の庁舎の広場で生産者さんの直売をやっている様子を、撮影させていただいて、3月に3本の動画としてYouTubeへ投稿をしております。現時点での再生数は3本合わせて、1,500回程度となっております。果樹直売場用段ボールの作成につきましては、さがみ農協さんと連携させていただいて藤沢産ロゴマーク入りの段ボールを作成して藤沢産の果樹のPRを行ったものでして、未執行の予算等を充てさせていただいたものになります。3以降はですね。実行委員会の予算を伴わない事業になりますので、説明のほうは割愛をさせていただきます。

続きまして資料2の1をご覧ください。令和3年度の藤沢市地産地消推進事業実行委員会の収支決算書になります。上段に収入の部、下段に支出の部を掲載しております。収入の部の決算額、合計の177万7,233円に対しまして、支出の部の決算額合計が168万9,311円、差し引きが8万7,922円となっております。この差引額は次年度に繰り越すものとさせていただいております。決算の詳細な内訳につきましては、資料2の2をご覧ください。予算額と決算額の差額が大きい項目といたしましては、地産地消イベントの「みなと春マルシェ」が企画段階で、蔓延防止等重点措置がとられていたことから、魚や畜産の触れ合いイベントや飲食ブースの設置を取りやめたことから、事業費が減少しているということで差が大きくなっています。そして最後に、資料の3にですね。本日は欠席ですが、山田幹事に事前に監査をいただいた資料となっております。決算書・帳簿・通帳などの関係書類を監査いただいて、適正に処理されていることをご確認いただいたものとなっております。説明は以上となります。

立石委員長

はい。ありがとうございます。事務局のほうから事業報告と収支決算報告ございましたが、これにつきましてご質問やご意見ございましたらお願いいたします。特によろしいでしょうか。監査も行われているようです。もしましたら議題の1になりますが、令和3年度の事業報告及び収支計算につきましては、皆さんご承認いただいたということでよろしいでしょうか。ありがとうございます。ご承認いただきました。続きまして議題の2になります。令和4年度の事業計画案等を収支予算案について事務局からご説明をお願いいたします。

事務局
(河原崎)

引き続き事務局の河原崎から説明させていただきます。続きまして資料4「令和4年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会事業計画書(案)」をご覧ください。こちらは、今年の4月からスタートした新しい地産地消計画の重点的に取り組む施策を表側に、裏側に長期的に取り組む施策を記載したものとなっております。施策の柱が長期と重点とそれぞれ、3本ずつござい

まして、それに紐づく取り組みごとに、真ん中の列に実行委員会の予算を伴う事業、右側の列に実行委員会の予算を伴わない事業を一覧表のような形で整理させていただいたものでございます。今回は、資料5のスライドを使いまして、真ん中の列に記載されている実行委員会の予算を伴う事業についてを中心に説明させていただきたいと思っております。画面のほうにも映し出しております。スライドになります。まず、事業案の一つ目が「新たな一次製品の創出に向けた農産物の試作支援」となっておりまして、こちらについては、第5期計画から新たに重点施策として位置づけた、「藤沢ブランドの創出」に係る取り組みとなっておりまして、予算を10万円配分しております。具体的な事業の内容といたしましては、例えば、茅ヶ崎のトルコナスですとか、綾瀬の菜速あやせコーンなど、他市でブランド化が進んでいる事例を参考に、藤沢市の新たな一次製品の広報、そして、生産者が個別に生産しているような農産物を組織的に生産するための支援を行いたいと思っております。支援の内容といたしましては、ブランド化に向けて、容器包装類やラベルシールの費用を負担するであるとか、普及啓発用のチラシ・ポップなどの作成費用を負担するなどして、新たな一次製品の販路を拡大したりとか、安定的な生産を図ったり、付加価値の向上を図るような取り組みができればいいなと思っております。

2点目が、「未利用魚を活用した加工品の開発支援及び学校給食での活用の検討」となっております。こちらについては、計画の「藤沢ブランドの創出」及び、「ふじさわ産農水産物等の学校・保育園給食供給強化」という二つの重点施策にまたがる、取り組みとなっておりまして、予算の配分額が20万円とさせていただいております。具体的な内容といたしましては、水産技術センターの方から助言をいただいたりとか、漁協の方と未利用魚の活用方法についてご相談をさせていただいて、加工品の開発までできた場合には、それにかかる、容器包装類の作成費用などを実行委員会で負担していくようなことをイメージしております。学校給食に関わる部分ですけれども、給食でお魚等を提供するためには、300人以上まとまった量を用意しないといけないであるとか基本的には骨を除去しないといけない、冷凍の状態でも納入しなければいけないとか、様々な条件があることがわかりました。現在藤沢産水産物として学校給食で使用しているのは、「しらす」のみとなっております。未利用魚を活用した加工品が給食でも活用できるようなものにできれば水産業の振興の他、食育や食品ロスの削減など、多方面で色々な効果が見込まれるのではないかと思います。

続きまして3点目が、ふじさわ産農産物を利用した加工品の開発支援でございます。こちらは「藤沢ブランド創出」という重点施策に係る取り組みになっておりまして、予算の配分額が10万円です。詳細な内容といたしましては、生産者の方やJAの皆様、あとは加工業者の方とご相談をさせていただいて、組織的に生産されている藤沢産農水産物を活用した、新たな加工品を対象に、PR用品等の作成費用を実行委員会で負担する内容となっております。

ります。事務局側で候補を考えておりました、藤沢産の酒米を100%使用した日本酒などが候補として考えられると思っています。稲作を支援の対象とすることにより、良好な景観を形成したりとか、生物の多様性の保全とか、災害時の遊水池機能とか、様々な機能がある水田を守っていくような取り組みにもなると考えております。

続いてスライドの4つ目のご説明に移ります。こちらは小学校でのふりふりバター体験事業と保育園児との交流に係る講師謝礼という二つの事業をまとめさせていただいております、重点施策の「ふじさわ産農水産物等の学校・保育園給食への供給強化」に係る取り組みとなっております。ふりふりバター体験事業については、昨年度の事業実績でも報告させていただいたとおりの内容を今年度も引き続き実施させていただければと思っています。保育園児との交流に係る講師謝礼というのは、今年度新たに予算に計上させていただいているんですけども、現在モデル園を中心に保育園で生産されている農水農産物を給食として提供する、取り組みがあるんですけども、この際に、提供するだけではなくてその際に生産者の方と、保育園児の方が交流するような機会を設けて、より効果的な取り組みにできるといいのかなということで、農家生産者の方に支払いする謝礼を予算に計上させていただいたものになります。

続きましてスライド5つ目、地産地消イベント事業になります。こちらについては、昨年度は「みなと春マルシェ」を実施させていただいたものなんですけれども、現在毎月第3土曜日と日曜日に片瀬漁港において「江の島フィッシャーメンズマルシェ」が開催されておりまして、農産物の直売なども実施にされていることから、こちらの実行委員会でのイベントというのは実施場所や時期などを見直しさせていただいております。見直しの案といたしましては、イベント名としては、「オーガニックマルシェ」としておりまして、11月23日の勤労感謝の日に会場を仮押えさせていただいているんですけども、辻堂駅の北側の辻堂神台公園、テラスモールとか徳洲会病院の間のところにある公園で、イベントを開催できればと考えております。「オーガニックマルシェ」とさせていただいた理由といたしましては、国が示す「みどりの食糧システム戦略」におきまして、有機農業の取り組み面積の拡大などが掲げられておりまして、藤沢市の都市農業振興計画においても、同様に有機農業の取り組み面積を拡大するという目標を設定していることから、有機農業に着目イベントを開催できたらいいのかなと思っています。有機農業には「安全」とか、「体に良い」というようなイメージがあるかと思うんですけども、一方で、慣行栽培の農産物との価格の差であったりとか、実際に虫食い跡がある野菜を目にした時に、その購入に抵抗を感じる方っていうのも、いらっしゃるのかなというふうに考えておりまして、有機農業の理解を促進するイベントを実施させていただいて今後、有機農業が市内に広まるきっかけとなるようなイベントができればいいのかなというふうに考えております。また、それ以外のイベントとしても、昨年度、実施さ

せていただいている、藤沢駅北口で実施している、元気バザールであるとか、市役所庁舎前広場で実施しているサンセットマルシェといった既存のイベントの機会でも、藤沢産農水産物のPRを行いたいと思っています。

次のスライド説明に移ります。次が花育体験イベント事業とPR用花きの購入費になりますが、こちらについても前年度の取り組みが効果的な事業だったかなと思っていますので、引き続き今年度についても、実施できればというふうに考えております。第5期計画では、「未来を担う若い世代への普及啓発」というものも、具体的な取り組みとして、位置づけておりますし、先ほどのアンケート結果でも、比較的年代の高い方というのは地産地消への関心が高い一方、若い世代というのは数字的にはよくないところがありますので、子どもや若い世代を対象としたイベントを開催できればというふうに思っております。

次の事業の説明です。「動画PVの作成」につきましては、昨年度開設したYouTubeのチャンネルに今年度も3本新しい動画を投稿できればと思っています。内容としては、藤沢産農産物の旬であるとか、生産者のこだわりであるとか、おいしい調理方法などを紹介するような動画などを考えております。内容につきましては、アンケートの結果等を分析しながら市民の知りたい情報を発信できればと思っています。

次のスライド行きます。ふじさわ産利用推進店PR用の食べ歩きマップの作成につきましては、今年度につきましては、これまで食べる歩きマップが作成されていない北部方面であったりとか、そういったところのPRであったりとか、一部で外国人観光客の受け入れ再開などの報道もありますので、多言語化への対応などを今年度の事業として実施できればと思っています。

最後の事業の説明になりますけども、「量販店における藤沢産コーナーPR物品」につきまして市民アンケートでもニーズの高い、量販店における藤沢産コーナーの設置を進めるために、PR物品を作成したいと考えております。今回、市内35店舗に「ふじさわ産コーナーを設けているか」聞き取り調査をさせていただいたんですけども、57%に当たる20店舗で何らかの形でコーナーを設置していただいていることがわかりました。引き続き、PR物品を作成するだけではなく、量販店とそこに納入する生産者さんの顔つなぎなどもあわせて実施することによって、効果的な取り組みにしたいなと考えております。事業内容の説明は以上となります。

最後に、資料6-1、6-2を使って予算書案の説明をさせていただきたいと思います。まず資料を6-1「令和4年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会収支予算書(案)」をご覧ください。収入の部ですが、前年度と比較いたしまして7万1,204円の減となっております。こちらの減の理由といたしましては、前年度繰越金が減少していること、それから、昨年度あったエコバッグの販売収入が売り切れておりますので、なくなっておりますので、その分が減となっております。市からの負担金については前年度と同額の

160万円となっています。続きまして支出の部につきましては、藤沢ブランド創出に係る取り組みですとか、あとは保育園児と生産者との交流にかかる予算を新たに計上しております。細かいところですが、ふりふりバター体験事業の予算については、材料費の値上げなどを考慮し、1万円増額をしたりですとか、そういった調整をさせていただいているところです。変動が大きいところといたしましては、長期的に取り組む施策の2段目に記載されている、藤沢産ロゴマークシールを作成費用については、昨年度はこちらの実行委員会の予算で作成をさせていただいたんですけども、今年度は市で予算化しておりますので、減額となっております。各事業の細かな内訳等については資料6-2をご覧くださいければと思います。詳細な内訳と右側の欄に計画のどの項目に該当するののかというのを記載させていただいているものになります。なお、新型コロナウイルスの感染状況というのが不透明な部分がありますので、昨年度と同様、万が一予定していたイベント関連の事業が中止となってしまった場合などについては、かわりにですね、地産地消の普及啓発物品の作成費用などに充てさせていただくということも考えておりますので、そういったところも含めて、ご審議をいただければと思います。議題2の説明は以上となります。ご審議よろしくお願いたします。

立石委員長

はい。ありがとうございます。事務局のほうから事業計画案と予算案が提出されてまいりました。これについて質問、ご意見等ございましたらお願いいたします。特にございませんでしょうか。

事務局
(河原崎)

事務局のほうからよろしいですか。先程と同様本日欠席の青柳議員からご意見をいただいているので、読み上げさせていただきます。未利用魚を活用した加工品開発に期待したいと思っています。小さい魚の加工は大変だと思われませんが、学校給食での活用や藤沢産のふりかけであるとか、お菓子といったものになると良いと思いますのご意見となると思いますけども、頂いております。以上です。

立石委員長

はい。そういうご意見があったということです。

ざっくりロゴマーク代が市の予算になったので、この分が大きく使えるようになって、事業が進むということですよね。

よろしいでしょうか委員の皆様方、お願いします石井委員。

石井委員

すいません、実行委員会に対する質問なんですけども。初めて参加させていただくので、部会が三つあるということだったので。部会ごとに何を取り組まれるのかと。令和4年度はどういった頻度でこういった会議等を開催していくのか、お伺いできたらと思います。

立石委員長

事務局のほうからご説明お願いいたします。

事務局
(河原崎)

今回は部会ごとに取り組み内容を検討いただく機会を設けることができなかったのですが、昨年度に最後に開催した協議会などでは、次年度の取り組みとして、部会ごとに取り組み内容のご検討などを過去にはいただいています。現段階では、何回今年度また部会ごとにお集まりいただくとかということが決まっているわけではないのですが、特にブランド化については、新しい取り組みとなっております、何に対して、どういった支援をしていくのかというところまでは、この場で決まっているものではありませんので、そういったところを中心に、ご相談をするような機会に、お声がけをさせていただくというようなイメージであります。

石井委員

実行委員会は、私も清水委員もオブザーバー扱いですが、もし何か、そういった部会等もあれば、ぜひ呼んでいただけたら有難いと思っております。

そして、動画PVの作成ですが、現在3本動画が上がっており、今回も3本つくるとのことですが、これでもっと頻繁につくってあげたりすることって、できないのかなと思ったのですが、お伺いします。

事務局
(河原崎)

動画やPVについては、投稿頻度が高ければその分、ご覧になる方の意識が向いてくるので、良いと思っています。ただし、この動画の作成方法については、実行委員会の予算を使わせていただいて外注する形をとっているため、動画一本にかかる経費などを考えると、3本ぐらいができる範囲なのかなと思っております。

石井委員

ありがとうございます。そうなのかなと思うのですが、地産地消アンケートの結果を見ますと、若い世代が非常に認知度というか、意識はもう少し欲しいなというところなのかなと思うと、やはり動画、特にT i k T o kとかInstagramとか、そういったものの活用も求められるのかなと思うと、やはりYouTube 3本だけという、正直、まだまだ足りないのかなと思います。農水省では職員の方が自前でYouTubeつくったりされています。アプリとかもありますので活用いただいて安くできると思いますので、ご検討いただければ良いと思っております。

立石委員長

石井委員ありがとうございます。他にはどうでしょうか。いろいろ予算も伴うことなので、ゆっくりと検討していきながらということでもよろしくをお願いいたします。他はよろしいでしょうか。

林委員

今回Z o o mの参加で、あまり声がしっかり聞こえていないという状況の中で、他の委員の方がお話しされていることがしっかり聞き取れなく

て、それは議事録で確認させていただこうと思うのですけれども。動画とPVの作成に関して出演者への謝礼3万円ですけれども、こちらは出演される方というのは、農家の方やフィッシャーマンズプロジェクトの方なのではないでしょうか。

立石委員長

事務局で想定されているようでしたら、お願いします。

事務局
(河原崎)

想定といたしましては、例えば動画の企画案として、今後新しい一次産品をブランドとして打ち出していくときに、おいしい食べ方がわからないとなかなか普及もしないと思うので、そういった部分を生産者だから知っている、おいしい食べ方であるとかをあわせて紹介をできるような動画を作成できると効果的なのかなと思っています。その際に出演していただいでご協力をいただいた生産者の方にボランティアという形ではなくて、謝礼としてお渡しできるようにということで、予算案として、計上させていただいたものになります。

林委員

出演していただく方にお支払いするのは、当然すごくいいことだと思うのですが、プラス影響力のある方に出演いただくのは難しいでしょうか。難しければ、少なくとも「ふじキュン」が出演するなどできると、インパクトがあると思います。

事務局
(河原崎)

林委員からご提案いただいたふじキュンの出演については事務局でも、案としては上がってきているところですので、費用もかからず取り組める内容なのかなと思っていますので、実現できることから反映をさせていただければと思います。

太田委員

私も林委員と同じ意見で、動画を作成するのであれば、見てもらわなくては意味が無いので、影響力がある人が出ると良いと同じように思いました。

それから、新たな一次産品創出に向けた農産物の試作支援ですが、茅ヶ崎のトルコナスや菜速あやせコーンは、かなり成功している事例だと思っています。今現在、藤沢で話が進んでいる物はあるのでしょうか。

立石委員長

何か目星はあるのでしょうか。

事務局
(河原崎)

事務局としては、新たな一次産品になり得るポイントとして、例えば茅ヶ崎のトルコナスであれば、あまり他では見たことがない、茅ヶ崎でしか買えないというような強みですとか、菜速あやせコーンですと、トウモロコシの特性上、夜間に水分や当分を蓄えて、夜明け前から収穫してすぐに消費者の方に行き渡る等、おいしく食べられるという点で地産地消と非常

に愛称がいいってというような部分、そういったところに着目する必要があると思っておりまして、例えば今回スライドに載せさせていただいたんですけども、他になかなか買えないというところで「葉ニンニク」が候補になるのかなど、あとは収穫してからなるべく早く食べたほうがおいしいという点で「アスパラガス」、あとは一部湘南黒豆ということでブランド化の取り組みが進んでいる「枝豆」なども、収穫されてから食べたほうが格段に風味が違うなど思っているのですが、そういった特性なども考えながら、個別に生産者やJA等と話を進められればと思っていますし、逆にこういったもっといいものがあるよということが、各委員さんのほうからあれば、ぜひ事務局に情報提供いただければと思っています。

立石委員長

ほかにどうでしょうか。清水委員お願いします。

清水委員

これまでずっと議論を聞いて、私は疑問に思うのがブランディングをどうするのか。振れ幅が大き過ぎて、例えば「京野菜」のように高級路線を行きたいのか。それとも薄利多売で行きたいのか。それによって売り方も違ってきますし、ターゲットも違ってきますし、その部分は詰められていないというか、曖昧に計画が進んでいるように感じるのですが、そこはどうお考えなのでしょうか。

事務局（及川課長）

「アスパラガス」ですとか「葉ニンニク」につきましては、先日も農協の営農センターの方々との会議の場を持ちまして、そういったものが候補にならないかということでご提案させていただいているところです。まだ確実に絞ったものもないので、まだどういう方をターゲットにしているところまでの議論ができてないということも事実です。ただ「京野菜」みたいにいわゆる高級路線というような形ではなくて、郷土愛を持ってもらえるような製品をつくることができればなど考えておりますので、まず農協の皆さんとどういった形でグループ化なり、できるかなどいうところを検討させていただきながら茅ヶ崎等の成功事例も参考にさせていただいて、新たな一次産品を創出していきたいと考えております。

立石委員長

よろしいですか。他いかがでしょうか。何名かの委員の方から貴重なご意見を拝聴しておりますので、予算等々も含めながらご検討いただいて、できることから進めていくという形でお願いできればと思います。他は特に無いようでしたら、こちらの令和4年度の事業計画案と収支予算案についてご承認いただけますでしょうか。承認ということですのでよろしいでしょうか。よろしいですか。ありがとうございます。ただいま承認されましたので、資料の（案）の文字は消していただきまして、決定ということにさせていただきたいと思います。最後の議題ですね3番のその他になりますが委員の皆様、事務局から何かありますでしょうか。はい。清水委員お願い

します。

清水委員

先ほどの話と関わってくるのですが、今回アンケートをとられて、初めて見たのですが、結構いいアンケートで、例えば新鮮さが重要だとか、先ほどおっしゃったように、まだ売ろうとしている商品を決めてないような感じでしたけれども、アンケートを見ると、もう明らかにこれで行けるなというのがはっきりしていると思うのですよね。だからもうちょっとこのアンケートを利用して、今後、私が先ほど申しましたブランディングの部分をもっと絞っていく。もうそういう時期なんじゃないかと思えますので、よろしく願いいたします。

立石委員長

コメントになるかと思えます。ご参考によろしく願いいたします。他にどうでしょうかその他ありますでしょうか。特にないようでしたので、これで本日の議題は全て終了ということになります。皆様ご協力いただきまして会議が円滑に進行できました。大変ありがとうございました御礼申し上げます。進行を事務局にお返しいたしますので、よろしく願いします。

4 閉 会

事務局
(竹中補
佐)

立石委員長ありがとうございました。以上をもちまして令和4年度第1回藤沢市地産地消推進事業実行委員会を閉会といたします。本日は長い時間に渡りどうもありがとうございました。事務局で日額報酬の支払い事務を進めますが、口座情報等の登録情報に変更が生じている委員の方におかれましては、会議終了後は事務局の職員へお声がけいただければと思います。また、次の協議会の予定ですが、3月下旬を予定しております。詳細な日程が決定しましたら、お知らせを送らせていただきたいと思えますのでよろしく願いいたします。なお、本日事務局でご用意させていただきました藤沢市地産地消推進計画につきましては、返却いただきますよう願いいたします。机の上にそのまま置いていただければと思います。

会議とは関係ないところなのですが、花の取り組みのご紹介をさせていただければと思います。こちらの庁舎の入り口のところ駐車場側の入り口のところにですね。地産地消の取り組みの中でお花が飾ってあります。JAさがみの花卉温室部の方にご協力いただいて市の予算で買ったものになるんですが、展示して知る機会をつくっていただいております。あと同様に江の島の弁天橋にも、花が植えられている状況となっておりますのでお近くをとられる際は気にしていただければと思います。では、長時間にわたりどうもありがとうございました。

終 了